

あたたかな日差しで春の訪れを感じられる季節になってきましたね。前回に引き続き、「非認知機能」についてお伝えしていきます。今回は子どもへの意識づけをするための大人のかかわりについて、お伝えしたいと思います。

子どもへの意識づけをしていく上で、大人が行うかかわり方について

ステップ1：価値の共有

非認知機能を育むためには周りの大人からの押し付けではなく、意識づけが必要で、子どもが「こうなりたい！」「やってみたい！」ということ子ども本人が意識して行動し続けることが大切です。

そのため大人は子どもと意識を共有し支えることが大切となってきます

ステップ2：見とる、そしてフィードバックで意識づけをする

結果ではなくプロセス（過程）の中で大人が価値を見つけること（見とる）ことが大切です。大人が「できた・できなかった」という結果のみでは限られた見方しかできませんが、プロセスではいろいろな見え方ができます。そこで大人が意識するポイントが大切です。

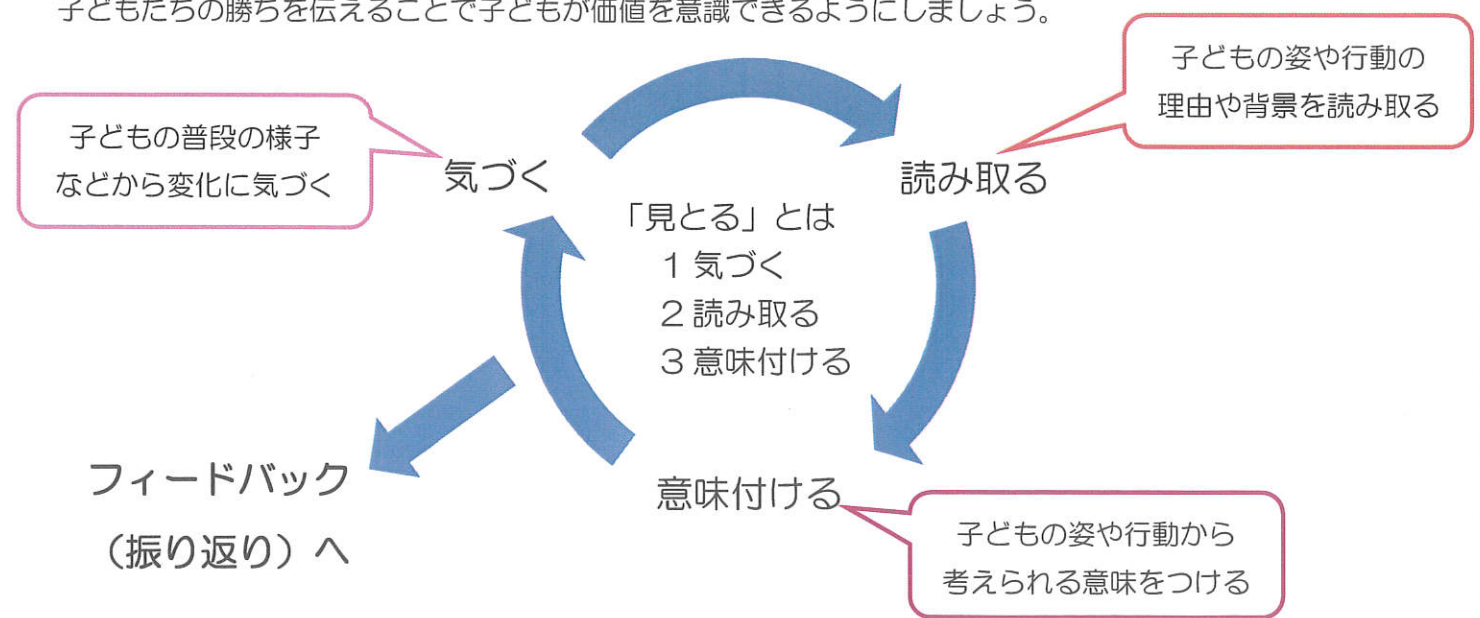
<ポイント>

① 子どもの姿・行動から見とる。

様々な活動中のプロセス（子供の姿・行動）から大人がいろいろな視点で価値を見つける。

② 見とったあとはフィードバック。

子どもたちの勝ちを伝えることで子どもが価値を意識できるようにしましょう。



見とる→フィードバックすることで大人が子どもに価値があることへの意識づけを行います。フィードバックすることで子どもと大人の価値の共有となります。価値の共有がすすみ、子どもが自分からその価値を意識して行動できるように大人は「見とる→フィードバックする」を繰り返し子どもの意識づけを行います。

気を付けなければいけないのは**価値の強要ではなく、共有することが大切**です。

次回はかなで行っていることについて、いくつかご紹介していきたいです。